

TACでよかった! TACだから合格できた!

CIA試験合格者が語る TACの魅力とは?

Message
from
Winners



特別インタビュー

CIA成績優秀賞2011 日本人唯一の受賞者に聞く

辻 健一さん

CIA(公認内部監査人) QIA(内部監査士)

Q.CIAにチャレンジされた経緯についてお聞かせください。

A.これまで、技術職、営業部長、子会社の社長など様々な業務をこなしてきましたが、60歳を過ぎてから監査部へ異動となりました。初めは、何をしたいのか分からないという状況でしたので、監査に必要な知識を得るためにCIA取得を目指しました。

Q.実際に資格を取得してメリットはありましたか。

A.まず、学習自体が実務に直結していますので、仕事にとっても役に立ちました。特に、CIA試験では、専門職的実施の国際フレームワーク(IPPF)の理解が必要ですが、これは監査業務にも必要な知識です。仕事につながりやすさ資格も取れるというのは大きなメリットでした。また、社内評価につながるという点もあげられます。私の場合は、評価が上がり、ボーナスが増額されました。これは、受験時代のモチベーションアップにも多少つながりましたね(笑)。その他、名刺に「公認内部監査人(CIA)」と記載することで一人前として認められるといった効果もありました。

Q.TACをお選びいただいた理由を教えてください。

A.実は以前、娘が公認会計士の試験勉強でTACにお世話になっておりまして馴染みがあったというのが正直な理由です。

Q.TACの教材でよかった点があれば教えてください。

A.Basic会計講座と各科目のトレーニング(300問)です。私は、技術系出身なのでITには馴染みがあったのですが、会計は門外漢でした。そのため、Basic会計講座により、会計の基礎や考え方を理解できたのが良かったですね。また、私は長時間、電車通勤しておりますので持ち運びに便利なトレーニングを車内で活用していました。間違えた問題は、記録に残して何度もチャレンジしました。

Q.今回、日本人で唯一の成績優秀者として米国のIIA(内部監査人協会)より発表がありました。なぜこのような栄冠を手にすることができたのでしょうか。

A.正直申し上げますと、このような賞が存在することすら知りませんでした(笑)。知っていれば、世界でNo.1を目指して勉強していたかもしれませんね。

今回の受賞にあたり、特に秘策というのは無いのですが、試験に合格するための勉強というよりも監査に必要な知識を吸収したいと考えていました。つまり、監査に必要な知識を吸収しつつ、試験に全問正解するつもりで勉強していましたので、合格のための勉強という意識はありませんでした。工夫した点は、合格までのプロセスを可視化したことです。解いた問題をエクセルで管理していましたので、一目でどこが弱点なのか分かりましたし、克服していく過程が見えるのでモチベーションにもつながりました。

Q.内部監査業務の魅力についてお聞かせください。

A.正直、監査部に異動する前は、嫌なイメージしかなかったですね(笑)。でも監査を実際にやってみると非常に面白いと思いました。特に、監査で大き

なりリスクを発見し、改善すべき点を社長に報告し、実際に改善が図られた時は、会社に貢献することができたと感じましたし、面白いと思いました。ただ、欲をいえば、もう少し若いときに監査実務に携わりたかったですね。せめて55歳くらいで担当したかったと思いました。

Q.監査のキャリアとはどういうものが考えられますか。

A.まず監査には、2通りのキャリアパスが考えられます。1つは、様々な業務を経験してから監査部に異動するケース。もう1つは、若いうちに監査を経験し、会社全体をみてから現場に異動していくケースです。これまでの日本の状況は、前者が圧倒的に多いと思いますが、今後は、後者の方にシフトしていくことを期待しています。若いうちに、会社全体をみておくことは人材育成の観点からも非常に重要なことだと思います。

Q.これからCIAにチャレンジされる方にメッセージをお願いします。

内部監査は、企業に価値を付加するもので、組織にとって必要なものです。若いうちから監査の考え方を習得しておくことは、非常に重要だと思いますし、CIAを通して内部統制や監査の知識を習得することが今後のキャリアにも良い影響をおよぼすと思います。一方で年齢を多少重ねているからといってCIAを諦めるのは非常にもったいないと思います。私は、意欲さえあれば、年齢は関係ないと思っています。これは、60歳を過ぎてからCIAにチャレンジした私自身が証明していることです。

